

春闘勝利、青年部が総決起

13日 局前に 210名

日刊 勤労千葉

82.4.19

No.1023

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)八(公衆) 日三三二七二〇七

権力・本部「革マル」による「警察強要」のデモ上げ弾圧許すな

四月十三日、青年部は、十五〜十六決戦スト貫徹に向けた総決起をかちとった。十三日に予定された国電半日ストライキは、政府支配階級の春闘解体、とりわけ国鉄労働運動に対する「ストライキに突入すれば、有額回答はしない」「スト参加者は即解雇」「国鉄ストに対し、刑事罰の法制化を」と叫びたてるスト圧殺のどり喝のなかで、決定的な意味をもっていった。「もうがまんできない。断固ストライキをうちぬくべし！」という圧倒的な下部労働者の怒りを背景に、十三日青年部は、独自に八二春闘総決起集会を開催した。夕刻、千葉鉄局前は、二一〇名の圧倒的結集と「十五〜十六ストを貫徹するぞ！」という怒りの声でうずまいった。

力強く集会をかちとる

集会は、本部青年部繁沢書記長の司会で開会され、本部を代表して水野副委員長からあいさつをうけた。ついで、四・二三スト拠点として、籠城体制をもって闘いぬいた津田沼・千葉転両支部より石井青年部長・藤平副青年部長がたつてそれぞれから「右翼や動労革マルの春闘破壊を粉碎するために深夜パトロールを貫徹し、万全な体制をつくりあげた。残念ながらストは中止されたが、しかし、この怒りを十五〜十六スト貫徹のバネとして総決起する！」と闘争報告がおこなわれた。

佐倉・成田支部組合員に対する二年も前の「本部」派組合員に対する全く正当なオルグを理由とした「『警察強要』容疑なる出頭命令攻撃に対して、青年部を先頭に千三〇〇の怒りの総反撃を本日から開始しよう」と訴え、全体の圧倒的拍手で確認された。

権力の弾圧をはねのけ 戦闘的市内デモ貫徹

集会の最後に、全支部青年部及び本部青年部常任会を代表して内田常任委員からの決意表明がおこなわれ、永島常任委員よりの行動提起を受けて異常なまでの弾圧体制をしいた千葉県警機動隊と右翼の敵対をはねのけて、中央公園までのめぬき通りを揺がす市内デモを貫徹した。

中央公園での総括集会では、長田副青年部長・田中青年部長より総括提起を受け、最後に、笠井常任よりの組合歌唱・団結ガンバローをもって集会を終了。万全なスト体制の確立に向けてそれぞれの拠点に散っていった。

つづいて、圧倒的な拍手のなかで、この四月、新たに動労千葉に結集した二一名の仲間全員が、前にならび、それぞれ、自己紹介と共に闘いぬく決意が述べられた。参加者からは、ひとりひとりの発言ごとに大きな拍手と歓声が沸きおこり、最後に盛大な拍手で、動労千葉の一年間の前進が、この二一名の新しい仲間の結集のなかにもっとも鮮明に示されていることを確認しあった。

ストなし春闘を現場労働者の力でうち破ろう 「任意出頭」なる新たな弾圧・介入攻撃を怒りをもつてうちくだこう

つづいて、基調報告にたつた田中青年部長は、今春闘で示されている事態、そして国鉄労働運動に対する極めて悪らつな攻撃のなかで、労働者の怒りは、あらゆるところであふれだそうとしている。今こそ、全国鉄労働者の先頭にたつべきときが来ている。そうであるがゆえにわれわれに対する新たな弾圧がかげられようとしている。暗黒のフレイムアップ弾圧への道を開こうとする三・二七不当家宅捜索、そして権力・革マルがまさに一体となった「新たな六・十二告訴」ともいべき



(21名の新人組合員も参加しかちとられた青年部総決起集会(13日 局前)

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよノ